

小室たかえの議会報告

http://www.komuro.kanagawanet.jp/



平成28年(2016年)
第3回定例会
9月1日(木)
~10月14日(金)

28年) 9月3日 土曜日 神奈川新聞

放射能汚染土



学校に埋めないで！
市立学校 72校
(小46、中23、高1、ろう1、養護1) 中、43校に基準を超える放射能汚染土が5年以上も埋設されている問題について、市長、教育長、教育委員会委員長に質しました。

2011年3月11日に起きた東日本大震災。その影響で東京電力福島第1原子力発電所は事故を起こし、放射能は横須賀市にも拡散されました。横須賀市は、市立学校の敷地内の放射能測定を行い、基準値を超える汚染土については各学校の敷地内に埋め、結果をホームページに掲載してきました。

一方、埋設現場は統一の表示などがなく、学校に一任されており対応はまちまちです。学校職員、児童生徒、保護者などにも埋設は周知されていませんでした。

答弁は、処分業者を探し



市立学校、汚染土埋設場所 23校で具体表示なし

【横須賀】放射性物質のどこに埋設されているかを把握していない保護者らも多という。

同日の市議会本会議で、青木克明教育長は、安全性に問題はないとしながら「安全と安心は違う。各校長の判断になるが、表示するの20校にとどまった。」

市教育委員会によると、汚染土を地中に保管しているのは43校(小学校27、中学校13、高校1、ろう・養護2)で総量はおよそ7トンの不安をおぼるべきではないという考えもあるが、正確な情報にアクセスできないようにすることは「重大」との見解を示した。

市教委は2011年11

市は公式サイトで、全校月の全汚染土放射線量を測定。市の基準値(地表高1センチ毎時0.593マイクロシーベルト)を上回った学校では汚染土を土のう用の袋と2重のポリ袋で密閉し、仮処分として敷地内の地中に埋める際、

「孤育て」に、しない！
子育て支援拠点 愛らんど

横須賀子ども未来プランでは、子育て支援拠点「愛らんど」を2019年度までにセンター型8か所設置としています。プランがスタートしてからまだ何一つ変わっていない現状ですが、プランは達成できるのでしょうか。

市長答弁では、幼保一元型認定こども園に移行する幼稚園・保育園に併設をする、健康福祉センター内の親子サロン型愛らんどからの移行、空き店舗等の利用を視野にすすめていくとの答弁でした。

愛らんど利用者からは、アドバイザーがいることの安心感は大きいと声を聞いています。今年度からは子育て支援員研修制度もスタートしています。研修はアドバイザーの要件ではありませんが、質の高いアドバイザーの確保のためにも、また、ファミリー・サポート・センターなど子育て支援の裾野を広げるためにも、もっと積極的に広報して受講者を増やすべきと考えます。



生ごみ、どうしていますか？

ここ数か月、我が家は燃せるごみがぐっと減りました。なぜなら、「キエーロ」を始めたから。我が家のキエーロは、プラスチック製の収納ケース(蓋付き)に園芸用の土を入れただけのもの。ベランダに置いてあります。スコップで穴を掘って、生ごみを入れて、土をかぶせます。臭いもなく、虫もわきません。生ごみからのストレスフリーな生活が気持ちいいです。土のある暮らしには、ささやかな

幸せを感じています。

横須賀市では、老朽化により新しい焼却場建設計画が進められており、私はこれまでその規模などについて質問をしてきましたが、「やっぱりそんなに大きな焼却場でなくてもいいんじゃないかな」と、キエーロを前にあらためて思うのです。

